

令和5年度 ともに未来を創る「くるめっ子」を育成する 鳥飼小学校プラン

《学校の教育目標》

仲間と笑顔で挑戦!

《本年度 学校の重点目標》

共に学びに向かい、自分の考えを表現する子どもの育成

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、他の学習や生活場面に生かすことができる。

【つくる力】

相手や状況に合わせて適切に表現し、お互いの考えを取り入れながら協働できる。

【つなぐ力】

めあてを達成する方法を決め、実行し、振り返りながら、あきらめず挑戦しようとする。

【つらぬく力】

学びをつなぐ授業

- ①「とりかい授業スタンダード」を活用した授業改善をもとに、見通しをもとに自分の考えを書いて交流したり、振り返りの時間にかかったことを書いたりする。(毎時間)
- ②個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づいたきめ細やかな支援(単元の導入や授業中に、C、D層のつまづきを把握し、理解度を確認しながらの支援)を推進したり、みんながつながることができる計画的な交流学习を実施したりする。(特別支援学級担任との週1回打合せ)
- ③個別学習、協働学習など学習場面に応じて積極的にタブレットを活用して、教材の提示を行ったり情報共有したりする。(毎日3回以上) 【成果指標】「授業で毎日タブレットを使用している」と答える児童の割合が80%以上
- ④ペアや全体で自分の思いや考えを外国語で伝え合う活動を行い、子どもたちの関心・意欲の向上を図る。(外国語 毎時間)

笑顔の先生

- ①「とりかいスタンダード」を基に授業公開による指導力の向上
- ②会議の回数と時間設定を見直す(学期1回)。提案資料は目的に沿った取り組みに絞りA4用紙1枚程度に減らす。(毎回)

【成果指標】「先生は、間違ったところを分かるまで教えてくれる」と答える児童の割合が85%以上

協働する学校・家庭・地域

- ①家庭学習強化週間(年3回)実施や家庭学習が厳しい児童に対する放課後学習会(月2回)の開催。
- ②家族タイム充実に向けたメディアの使用時間決めや早寝早起き朝ご飯摂取率向上のためのチェック表活用(年3回)
- ③江南中校区小中合同研修会実施(年3回)

楽しい学校

- ①「くるめアクションプラン」の初期対応を徹底する。全職員で登校確認、登校支援、遅刻・欠席の原因把握と即時対応を実施する。また、生徒指導サポーター、SC、SSWやそのほか関係機関との連携を図り情報を共有する。(毎日) 【成果指標】30日以上の不登校による欠席者数を前年度10名より減らす。いじめの解消率前年度95.0%を上回る。
- ②きまりを守ったり気持ちのいい言葉が行き交ったりする安全・安心な学校をつくるために、児童会活動と共同しながら啓発活動を行ったり、学級で相互評価する活動を行ったりする。(毎日1回)
- ③ブロック集会やドリームフェスタ等、縦割り・ブロックや学年集団を生かした取り組みの充実を図り、自分や友だちのよさを振り返りながら人権感覚を高めていく。(行事ごと)

【体力向上】

- ①体育の時間に、運動時間の割合を60%以上実施し、走力・持久力を高める運動を積極的に実施する。(毎時間)
- ②とりかいチャレンジ広場(持久走・大縄跳び) (「1校1取組」運動)
 - ・体力アップシート活用率:目標 70%
 - ・スポコン学級登録100%

【あいさつ・そうじ・自学自習】

- ①挨拶について、全校朝会の中で頑張りを伝え全校で実施・評価する。(毎学期)
- ②掃除について、掃除の手順カードをもとに取り組み、頑張りを振り返る。(毎日)
- ③低・中・高をもとにした「家庭学習の手引き」をもとに実施し、校内掲示や全校朝会を利用しながら評価をする。(月1回)

基盤として大切にすること(本年度の重点)

【人権・同和教育】「人権・同和教育の視点に立った指導のポイント」の活用、本校が大切にしている「人権感覚を高め合う子どもを育てる学習指導」の研修を推進し、とりかい授業スタンダードを徹底し、学ぶ楽しさを実感する授業づくりを行う。

【特別支援教育】特別な教育支援が必要な児童について、「個別の教育支援計画・個別の指導計画」「困難さのある児童生徒に対する支援の充実のための8ステップ」を活用し、同学年や特別支援コーディネーターによる協働的な支援を行う。

【キャリア教育】キャリアパスポートを活用して自己の伸びを認め合う。